

ドイツ語（初級 A） 第 10 回 人称代名詞

範囲：教科書第 6 課（S. 26-28）

《今回の基本例文》

28. Wem hilft die Sekretärin? – Die Sekretärin hilft ihrem Chef. Sie hilft ihm. (CD32-3)

その（女性）秘書は誰を手伝っているのですか？ – その（女性）秘書は彼女の（男性）上司を手伝っています。（つまり、）彼女は彼を手伝っています。

〔人称代名詞の 3 格、（3 格目的語をとる自動詞）〕

29. Wen heiratet dein Chef? – Mein Chef heiratet seine Sekretärin. Er heiratet sie. (CD33-3)

君の上司は誰と結婚するの。 – 私の上司は自分の秘書と結婚するんだよ。（つまり、）彼は彼女と結婚するんだよ。

〔人称代名詞の 4 格〕

30. Gibt Hans seinem Sohn das Buch? – Ja, Hans gibt es ihm. (CD34-1)

ハンスは息子にその本をあげるのですか？ – はい、彼（ハンス）はそれを彼（息子）にあげます。

〔人称代名詞の 3 格と 4 格の位置、（人称代名詞の 3 格、人称代名詞の 4 格）〕

31. Womit fährst du? Fährst du mit der U-Bahn? – Ja, ich fahre damit. (CD35-1)

君は何に乗って行くの？ 地下鉄で？ – うん、地下鉄で行くよ。

〔前置詞と疑問代名詞の融合形、前置詞と人称代名詞の融合形〕

32. Mit wem spricht er? Spricht er mit seinem Chef? – Ja, er spricht mit ihm. (CD35-2)

彼は誰と話しているんですか？ 上司とですか？ – はい、上司とです。

〔前置詞＋疑問代名詞、前置詞＋人称代名詞〕

I 人称代名詞

1 人称代名詞の変化 (S. 26)

◇ これまで、**人称代名詞**としては、1 格のみを扱ってきた（ich, du, er/sie/es, wir, ihr, sie, Sie）。ここでは、人称代名詞の 3 格と 4 格も覚える。

* 要するに、英語の *me* や *him* に相当するもの。

		1 人称	2 人称	3 人称			2 人称（敬称）
単数	1 格	ich	du	er	sie	es	Sie
	3 格	mir	dir	ihm	ihr	ihm	Ihnen
	4 格	mich	dich	ihn	sie	es	Sie
複数	1 格	wir	ihr	sie			Sie
	3 格	uns	euch	ihnen			Ihnen
	4 格	uns	euch	sie			Sie

* 後述の理由で、人称代名詞の 2 格は、いまは覚えなくてよい。

◇ 敬称 2 人称では、3 格や 4 格でもやはり **Ihnen** や **Sie** のように語頭を大文字にする。

◇ 人称代名詞の 2 格は、不定冠詞型（mein 型）として教科書第 4 課で学んだ所有代名詞とは異なったものである。人称代名詞の 2 格に関しては、いまは覚えなくてもよい。

* 人称代名詞の 2 格は、例えば 2 格支配の前置詞（⇒教科書 S. 24）などとともに使用される。

Statt ihres Mannes kommt Frau Müller selbst.

彼女の夫の代わりにミュラー夫人本人が来る。

→ Statt seiner kommt Frau Müller selbst.

彼の代わりにミュラー夫人本人が来る。

こうした事例はあまり多くないため、初学者は無視してもよく、ゆえに教科書では括弧書きされている。

2 3 格と 4 格の位置 (S. 27)

3 格と 4 格をともに含む文の場合、

- ・一方が代名詞、他方が名詞：代名詞一名詞
- ・両方が代名詞：4 格－3 格

◇ geben に代表される「〈3 格〉に〈4 格〉を何々する」タイプの他動詞を用いた文では、3 格と 4 格がともに登場するが、この場合の 3 格と 4 格の位置関係の規則は、

- ・ b) 一方が代名詞、他方が名詞の場合は、「代名詞一名詞」の順
- ・ c) 両方が代名詞の場合は「4 格－3 格」の順

である。

* 教科書には「a) 両方が名詞の場合：「3 格－4 格」の順」とも書かれているが、こちらは必ず該当する規則とは言えず、遵守せずとも間違いとは限らない。よって、現段階では、教科書の b) と c) を覚えること。

** やや初学者向きを逸脱した説明をすれば、「既知の名詞要素を先に、未知の名詞要素をあとに」が基本的な考え方となる。代名詞は必ず既知なので、b) の「代名詞一名詞」が成り立つ。一方、両方が名詞の場合は、3 格が未知（不定冠詞つき）で 4 格が既知（定冠詞、所有代名詞、指示代名詞つき）というパターンもあり得て、その場合、

Inge schenkt die Uhr einem Freund.

(4 格) (3 格)

インゲはその時計をある友人に贈ります。

ともなりうる。

■ 練習問題の補足

Übung 1 (S. 26)

1～4. gehören や helfen は 3 格目的語だけをとる特殊な動詞の典型。 (⇒授業第 4 回配付資料 S. 8)

Übung 2 (S. 26)

3～4. heiraten は他動詞で「〈4 格〉と結婚する」。日本語の「誰々『と』結婚する」の部分をドイツ語では 4 格で言うことに注意。

Übung 3

1～4. geben のみならず、schenken (〈3 格〉に〈4 格〉に贈る)、zeigen (〈3 格〉に〈4 格〉を見せる)、kaufen (〈3 格〉に〈4 格〉を買ってやる) も 3 格目的語と 4 格目的語を両方とる動詞。もっとも、zeigen や kaufen は 4 格のみを目的語とするパターンも多い。

II 前置詞と人称代名詞・疑問代名詞の融合形

3 前置詞と人称代名詞・疑問代名詞の融合形

前置詞と人称代名詞の融合形は、

- ・ da[r]＋前置詞
- ・ その人称代名詞がモノを表す場合に用いる。

前置詞と疑問代名詞の融合形は、

- ・ wo[r]＋前置詞
- ・ その疑問代名詞がモノを表す場合に用いる。

◇ ドイツ語には「前置詞となにかの融合形」が何種類もあり、すでに前置詞と定冠詞の融合形が登場している（教科書第 5 課）。ここでは、

- ・ 前置詞と人称代名詞の融合形
- ・ 前置詞と疑問代名詞の融合形

を学ぶ。

◇ 前置詞と人称代名詞の融合形は、

* 英語で言えば *with it* が融合して一つの単語になってしまうようなもの、と考えればよい。

- ・ 基本形：da＋前置詞（bei＋人称代名詞 → dabei）
- ・ 前置詞が母音ではじまる場合：dar＋前置詞（aus＋人称代名詞 → daraus）

◇ 前置詞と人称代名詞の融合形は、

- ・ その人称代名詞がモノを表す場合に限って使われる。
- ・ 人称代名詞が人間を表す場合には、融合形ではなく前置詞＋人称代名詞を使用する。
- ・ アクセントは前置詞の部分に置く。

.....
Schreibst du mit dem Bleistift?

.....
君は鉛筆で書くのですか。

.....
- Ja, ich schreibe mit dem Bleistift.

.....
はい、私は鉛筆で書きます。

.....
= Ja, ich schreibe **damit**.

.....
はい、私はそれ（＝鉛筆）で書きます。

.....
* 「鉛筆（Bleistift）」はモノなので、mit dem Bleistift は前置詞と人称代名詞の融合形の damit で置き換えてよい。

.....
** この mit は「～でもって」という手段の意味。 （⇒教科書 S. 22）

.....
Fährst du mit deiner Freundin?

.....
君はガールフレンドと一緒に行くのですか。

.....
- Ja, ich fahre mit meiner Freundin.

.....
はい、私はガールフレンドと行きます。

.....
= Ja, ich fahre mit ihr.

.....
はい、私は彼女（＝ガールフレンド）と行きます。

.....
* 「ガールフレンド（Freundin）」は人間なので、mit meiner Freundin は前置詞＋人称代名詞の mit ihr で置き換える。

.....
** この mit は「～とともに」の意味。 （⇒教科書 S. 22）
.....

◇ 前置詞と疑問代名詞の融合形は、

* 英語で言えば *for what* が融合して一つの単語になってしまうようなもの、と考えればよい。

- ・ 基本形: wo+前置詞 (bei+疑問代名詞 → wobei)
- ・ 前置詞が母音ではじまる場合: wor+前置詞 (aus+疑問代名詞 → woraus)
- ・ やはりアクセントは前置詞の部分に置く。

◇ 前置詞と疑問代名詞の融合形は、

- ・ その疑問代名詞がモノを問う was に限って使われる。
- ・ 人間を問う疑問代名詞 **wer** が前置詞とともに用いられる場合には、前置詞+**wer** の格変化形を使用し、**wer** の格は前置詞の格支配によって決まる（代表例は下記の通り）。

- bei+wer → bei wem (誰の近くで、誰のところで)
- für+wer → **für wen** (誰のために)
- mit+wer → **mit wem** (誰と)
- statt+wer → statt wessen (誰の代わりに)
- von+wer → **von wem** (誰によって)
- zu+wer → **zu wem** (誰のところに)

* wer の格変化については教科書 S. 13 を参照。

※※ 英語では、「あなたは誰を待っているんですか」と尋ねたいとき、

For whom do you wait?

のような前置詞+*whom* は格式ばった表現でしか用いられず、

Who do you wait for?

のように前置詞を文末に回す（しかも目的格形の *whom* ではなく主格形の *who* を用いる）のが自然とされる。一方、ドイツ語の前置詞＋**wer** は日常会話でも普通に使われる。

Womit fahren Sie?

あなたは何で（何に乗って）行くのですか。

Mit wem fahren Sie?

あなたは誰と行くのですか？

◇ まとめると、前置詞と人称代名詞・疑問代名詞の融合形は、その代名詞がモノを表す場合に用い、その人称代名詞が人間を表す場合には前置詞＋人称代名詞や前置詞＋**wer** の変化形を用いる。

- ・damit それによって
- ⇨ mit ihm/ihr/ihnen 彼／彼女／彼らと一緒に
- ・womit 何によって？
- ⇨ mit wem 誰と一緒に？

■ 練習問題の補足

Übung 4 (S. 28)

3~4. an *in/et*⁴. denken は熟語、「〈4 格〉のことを考える」の意味。英語の *think of* に同じ。

III nicht と kein の使い分け

■ nicht か kein か (S. 28)

◇ 不定冠詞型 (mein 型) として否定冠詞の **kein** がはじめて登場した際、「**kein** は英語の *no* と考えてよいが、もう少し用法が広く、詳しくはのちほどあらためて扱う」と予告した (授業第 7 回配付資料 S. 3)。以下、この問題についてあらためて解説する。

* 初学者にはややレベルの高い話になるので、現段階ではそこまで正確に理解しなくてもよい。

◇ 大原則としては、

- ・ 定冠詞、所有代名詞、指示代名詞によって特定された名詞を否定するときは **nicht** (無変化)。
- ・ 不定冠詞つきや無冠詞などの不特定の名詞を否定するときは **kein** (mein 型の変化)。

* **nicht** の位置についてはのちほどまた扱うが (教科書 S. 54)、さしあたり文末か否定したい語句の前と考えてよい。

Er leiht mir **kein** Buch. (← Er leiht mir ein Buch)

彼は私に本を貸してくれない。

* 不定冠詞つきの名詞の否定。本一般を貸してくれない、と言っている。

⇒ Er leiht mir das Buch **nicht**. (← Er leiht mir das Buch.)

彼は私にその本を貸してくれない。

* 定冠詞つきの名詞の否定。ある特定の本を貸してくれない、と言っている。

Ich trinke **keinen** Whisky. (← Ich trinke Whisky.)

私はウィスキーを飲みません。

* 無冠詞の物質名詞の否定。

Er hat **keinen** Mut. (← Er hat Mut.)

彼は勇気がない。

* 無冠詞の抽象名詞の否定。

Ich habe **keine** Kinder. (← Ich habe Kinder.)

私には子供がいません。

* 無冠詞の複数形の名詞の否定。

◇ ただし、下記のような、無冠詞でも動詞と密接に結びついて熟語化している名詞を否定するときは、**kein** ではなく **nicht** を用いる。

- ・ Bescheid wissen 事情を知っている
- ・ Klavier spielen ピアノを弾く

* こうした熟語表現は、もちろん辞書で確認できる。上の例なら、Bescheid を辞書で引けばよい。

** 一般に、楽器／スポーツ＋spielen はこうした熟語に該当する。

Ich weiß **nicht** Bescheid. (← Ich weiß Bescheid.)

私には事情がわからない。

* wissen (～を知っている) は特殊な変化をする動詞で、詳しくは次回に教科書第 7 課で扱う。

Er spielt **nicht** Klavier. (← Er spielt Klavier.)

彼はピアノを弾かない。

- ◇ ほか、授業ですでに学んだ範囲では、
- ・ 述語内容語としての形容詞（＝英語で言う SVC の C）
 - ・ 移動の目的地、方向を表す副詞句

などを否定するときは、**nicht** を用いる。

Der Anzug ist **nicht** dunkel. （← Der Anzug ist dunkel.）

その背広は黒柄ではない。

* 述語内容語である形容詞の否定。

Ich gehe **nicht** in die Bibliothek. （← Ich gehe in die Bibliothek.）

私は図書館に行かない。

* 移動の目的地の否定。

- ◇ また、接続詞 **als**（「～として」、英語の *as*）と結んだ名詞を否定するときも、**nicht** を用いる。

Ich bin hier **nicht** als Sekretär tätig. （← Ich bin hier als Sekretär tätig.）

私は秘書としては働いていない。

* als＋名詞の否定。als は前置詞ではなく接続詞である（格支配はない）。この例文の Sekretär は主語と同格なので 1 格になっている。

** tätig は形容詞で「従事している」の意。

- ◇ **nicht** と **kein** の使い分け（現時点で学んだもの）をまとめると、以下の通り。

nicht	定冠詞／指示代名詞／所有代名詞＋名詞
	動詞と結びついて熟語化した無冠詞の名詞
	述語内容語としての形容詞
	移動の目的地・方向を表す副詞句
	als＋名詞
kein	（上記以外の）無冠詞の名詞
	不定冠詞＋名詞

* **nicht** を使用したドイツ語の否定文は、*not* を使用した英語の否定文と異なって、*do* や *does* といった助動詞が不要であり、その意味では単純であるが、他方では **nicht** の位置に対する複雑な規則が存在する。今回の例文で言えば、

Er leiht mir das Buch nicht.

では文末に来る **nicht** が

Ich weiß nicht Bescheid.

ではなぜ文中にあるのか？ これらの問題については、のちに教科書 S. 54 であらためて扱う。

連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<http://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/>